小学校高学年における電子メールの使い方の指導の工夫
～いたずらメールの疑似体験プログラムの活用を通して～

情報教育班　　野尻　泰樹　（小学校教諭）
担当指導主事　教育情報推進係　小池　千秋

現代社会において私たちは、情報を容易に発信したり、交換したりできるようになった。そのため、情報を正しく収集・整理・発信・活用していく能力が必要になってきたと言える。また、携帯電話を持つ小・中学生が増えるとともに、学校裏サイトなどへの書き込みがいじめ問題に発展するなど大きな社会問題となっている。これらのことから、情報社会で「自分の情報や他人の情報を大切にする。」「相手への影響を考えて行動する。」「自他の個人情報を、第三者にもらさない。」などの適切な活動を行うための基になる考え方や態度を子どもたちに身に付けさせることが緊急の課題である。

携帯電話の普及　学校裏サイト　いたずらメール　モバゲー　携帯小説

実際の授業では？

データ通信の危険性や情報を扱う際のモラルやマナーについての指導をおろそかにしていた。

そこで

電子メールの使い方・マナーの学習　←　**校内電子メールやアニメーションソフトの活用**　→　**いたずらメールの疑似体験**

マナー

○電子メールは、日常生活でいうところの手紙に相当するものなので、電子メールを出す立場だけでなく常に受け取る立場になって、自分がもらったら不愉快になるような内容は書かないことが大切である。また、相手が安心して受け取れるよう、自分の氏名をはっきりと相手に知らせるようにする。
○相手にも都合があり、必ずしもすぐに返信できるとは限らない。返信メールがすぐこないからといって、いら立ってはいけない。
○巨大で複雑な電子ネットワーク社会の中には、悪意を持って接触を試みてくる人もいる。もし、不適切な電子メールを受け取ったら、相手にせずに削除するか、大人の人に相談する。

いたずらメールの疑似体験

○教師からの送られたメールを見て考える。
○チェーンメールやスパムメールのアニメーションを見て操作しながら学習する。

自分で操作し、意見を出し合い、深める。

○冗談半分で送ったメールがとんでもない迷惑に発展してしまうという事実を認識させる。
○世の中にはいい人ばかりではなく、悪意を持ってメールを発信する人やお金もうけをしようとしている人がいる事実をつかませる。

その結果

子どもたちがコンピュータのメールや携帯電話のメールを利用する際に、ルールやマナーを考え、事件に巻き込まれたり加害者にならぬよう気を付けて行動するためのきっかけ作りができた。

子どもたちが体験を通して考え、気付くといった活動ができた。

「総合的な学習の時間」の年間指導計画の中に情報モラルの学習を位置付けたことは、指導の時間を確保する上で有効であった。

電子メールの学習にアニメーションを用いたことで体験的な活動を短時間かつ効果的に行わせることができた。

【子どもたちの感想メールより】

私は、今日のパソコンの授業をうけてびっくりしました。自分の所に来たチェーンメールをそのまま5人の人に出すと、13時間で日本の人口をこえてしまうなんて。自分の所にこんなメールが来たら絶対に他の人には送らないようにしたいです。

スパムメールはとてもこわいメールだと思いました。なぜかというと、おもしろ半分に返事を出すだけでこちらのメールアドレスが相手に知られてしまうからです。もしも自分にこんなメールが来たらすぐに家の人に知らせようと思います。

今後は？

○子どもたちの実態に合った教材開発を進めていく 。
○子どもたちの実態を把握し、一人一人を生かすことのできる授業を展開していく 。
○学級通信等を活用して、家庭と協力して情報モラル教育を進めていく 。
○情報機器を校内で有効に活用してもらうため、他の職員と協力してマニュアル作りをしていく。
○情報教育の年間指導計画を改善していく 。